

# 第1編 基本構想

- 第1章 基本構想策定の目的
- 第2章 まちの将来像
- 第3章 まちづくりの基本目標

## 第1章 基本構想策定の目的

2005年(平成17年)に旧袋井市と旧浅羽町が合併し、現在の袋井市が誕生してから20年が経過しました。この間、袋井市では「日本一健康文化都市」を将来像に掲げたまちづくりを進めてきました。中でも、市制施行10周年の節目となった2016年(平成28年)には、袋井市日本一健康文化都市条例を制定し、自分たちのまちは自分たちでつくるという自覚と行動力の下、市民、地域団体、事業者、市議会及び市が、互いを尊重し、連携し合いながらまちづくりに取り組んできました。

この「日本一健康文化都市」では、「心と体の健康」はもとより、それを支える家庭や地域が温かい「地域と社会の健康」、都市環境と自然が調和し産業経済が活性化する「都市と自然の健康」を基本理念として掲げていますが、近年では、Well-being(幸福感)をはじめ、これに近い概念が社会的に普及しているところです。

これから先、経験したことのない人口減少社会が到来し、予測困難な時代となります。このような状況においても、市民生活を向上させ地域社会を発展させるためには、「日本一健康文化都市」をまちづくりの普遍的な理念として捉えた上で、中期的なまちの将来像として概ね10年後の袋井市をしっかり描き、それを実現するためのまちづくりの基本目標を市民と共に考え、共感を得ることが、これまで以上に重要となります。

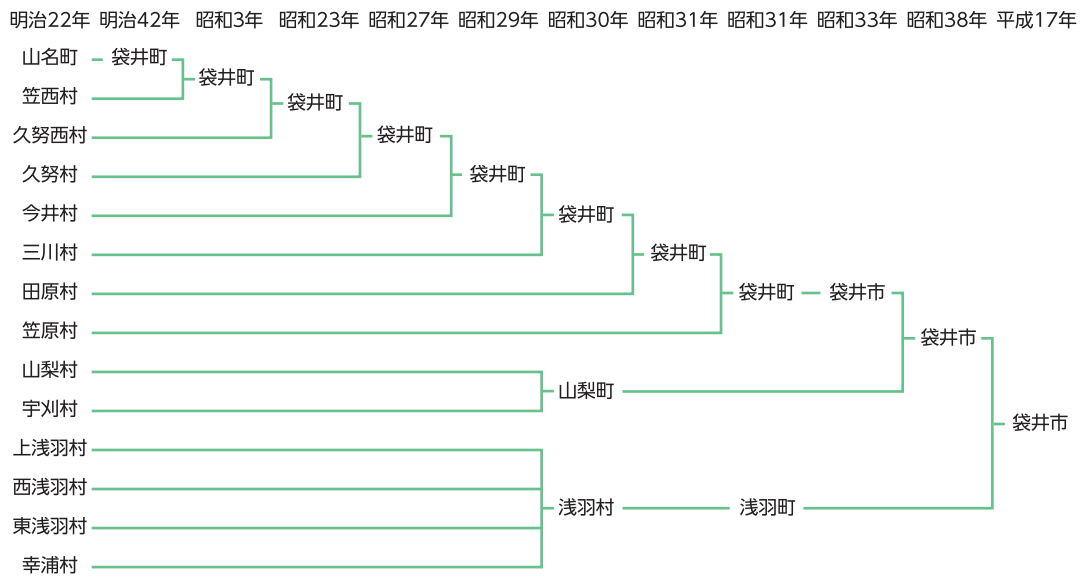
そこで、時代の変化や価値観の多様化に適応しながら、総合的かつ計画的なまちづくりを進めるため、市民と行政がともにまちづくりを推進する指針として、2035年度(令和17年度)を目標年次とする基本構想を定めます。

### ▶ 袋井市の変遷について

現在の袋井市は、明治22年市町村制施行時の14町村が合併を繰り返した後、平成17年に旧袋井市と旧浅羽町が合併して誕生しました。

この14町村が現在の地域コミュニティの基礎となり、各地区ではコミュニティセンターを拠点に、地域と行政の協働によって特色ある地域づくりが進められています。

#### 袋井市の変遷図



#### 明治22年の14町村



#### 現在の市内14地区



## 第2章 まちの将来像

第3次袋井市総合計画におけるまちづくりの方向性や将来の姿を表現し、市民とともにまちづくりを進める上での共通の目標として、次のとおりまちの将来像を定めます。

# にぎわい ずっと続くまち ふくろい

### ▶ 表紙のデザインについて



人がつながり、色が重なり、  
未来へつづく ふくろい

現在の袋井市は、明治22年の14町村が合併を繰り返して誕生しました。

この14町村が現在の地域コミュニティの基礎となり、各地区では、地域と行政の協働によって特色ある地域づくりが進められています。

第3次袋井市総合計画 前期基本計画の表紙では、過去から受け継がれてきた地域の歴史と、これから紡いでいく未来の希望を表しています。

多彩な色が重なり合って高みへ登っていく様子は、人と人がつながり、まちが発展していく様子であり、そこには市民一人ひとりの想いが点在しています。

袋井市は、そんな多様な想いが交わる場です。

市民と行政が手を取り合い、誰もが安心して暮らせる豊かなまちづくりを進めてまいりますので、是非、あなたもこのデザインの一部となって、袋井の未来に色を添えてください。

---

## 1. 将来像に込めた思いについて

笑顔があふれる場面には活気があり、「にぎわい」を感じます。

魅力的な場には、自ずと人々が集まり、「にぎわい」が生まれます。

人々がつながりを持つことでコミュニケーションが増え、新たな発想が「にぎわい」を育みます。

「にぎわい」は、まちの経済的な活性化や社会的な交流、文化の発展など、様々な面で重要であり、市民の生活における彩りや人との出会い、地域への愛着をもたらします。

本市はこれまで、市民一人ひとりがこの地域に誇りを持ち、お互い協力し合う市民力によって、未来につながる豊かなまちを築いてきました。

今後到来する人口減少などの様々な局面において、本市に関わるあらゆる人が挑戦する姿勢を原動力に、個々の特性を活かし、まちづくりに主体的に取り組むことで、まちの「にぎわい」がずっと続くこと、そして、にぎわうことでこのまちがずっと続くことを目指して、まちの将来像を掲げています。

---

## 2. 「にぎわい」について

「にぎわい」という言葉は、一般的には都市や産業などを想起します。まちづくり全体としては、こうした経済的な「にぎわい(富み栄えること)」の他にも、このまちで活躍し、様々な役割を担っているコミュニティや市民活動などの社会的な「にぎわい(活気にあふれること)」も重要な要素です。

また、まちの「にぎわい」は、本市に関わる全ての人々が自分らしく輝き、夢や希望を叶えることで、結果的に生み出されます。

第3次袋井市総合計画では、このような「くらし(人が輝くこと)」や「しごと(経済的な豊かさ)」が良好な状態であり、「誇り(社会的な活気の表れ)」を持って生き生きと発展するまちの姿を「にぎわい」という言葉で表現しています。

---

## 3. 「ずっと続く」について

「ずっと続く」という言葉は、途切れることなく続く様子を表しており、今ある「にぎわい」を維持するだけでなく、過去の継承や未来への投資も含めた様々な「にぎわい」を創出していくことへの思いを込めています。

- 古き良き「にぎわい」を大切にし、時代の変化に即した形で継承すること
- 今ある「にぎわい」を維持し、持続可能な形で発展させること
- 将来の「にぎわい」へ投資し、次の世代が豊かに暮らせる基盤を整えること

## 第3章 まちづくりの基本目標

まちの将来像「にぎわい ずっと続くまち ふくろい」を実現するための3つの基本目標として、次のとおり定めます。

### 1. 誰もが笑顔で 自分らしく輝けるまちの実現

まちの「にぎわい」は、そこで暮らす人が輝き、理想の「暮らし」が実現されることで生み出されます。このため私たちは、どんな世代、どんな背景を持つ市民でも、一人ひとりの多様な価値観や個性が尊重されるとともに、心身ともに健康で、自身の持つ夢や希望を叶えることができるまちの実現を目指して挑戦し続けます。

### 2. 住み続けたいと思える 魅力あふれるまちの実現

都市インフラを活用した産業や交流などの経済的な「にぎわい」によって、人々の生活を支える「しごと」が成り立っています。このため私たちは、都市機能や自然環境、産業のバランスを整えていくとともに、豊かな観光資源や文化・スポーツなどを起点とした多様な交流を通じた、活力あふれるまちの実現を目指して挑戦し続けます。

### 3. 多彩なつながりで 支え合いを実感できるまちの実現

人やコミュニティが、このまちでつながり躍動することで、社会的な「にぎわい」が生まれ、この地域に対する「誇り」が育まれます。このため私たちは、地域やテーマごとの様々なコミュニティ活動への参画や支援をすることで、つながりと心のやすらぎが生まれ、防災や防犯などにも団結して取り組むことができる、安心・安全なまちの実現を目指して挑戦し続けます。

#### ▶ 「まちの将来像」と「まちづくりの基本目標」の関係性

